#### いかなる事業も成功と失敗を分かつのは、トップの人物如何で決まる!

# 万世に通ずる"会社の根本土台"を創るための本質を学ぶ! <明君修養編>

明君と賢臣は善悪正邪の根本なり、人は明君と賢臣を見ることで従う!

『理非』(道理に適っているかどうか)を見据えて、『義』(善悪正邪)を軸にした判断であれば、経営に間違えることはありません。

しかし、『義』だけでは『利』を上げることができません。

そのために、『義』による『利』の実現を、正道商いたる『商人道』によって成していくことで、 『三方よし』(売手よし・買手よし・世間よし)を具現化でき、次の 100 年も貴社が当然のこととして 存続できる(している)のです。

これまでのセミナー形式ではなく、事前配布資料の概要を説明・解説し、参加者全員にて更なる中身 を議論・検討しながら確認・修得していく方式です。

そのために、各回の資料を事前にご提供しますので、最低でも一読をお願いします。

講義による習得ではなく、議論・検討中心による確認・修得のため、少人数での開催になります。

第1回	明君としての"道理と帝王学"の修養 ~ 経世済民(世を経め、民を済う)の本質を学ぶ ~ 事前必読資料 抜本塞源論 貞観政要(抜粋)			
第2回	賢臣育成のための"道徳と学問"の修養			
第3回	正道商いの根本 " 商人道 " の修養 〈その 1 〉			
第4回	正道商いの根本 " 商人道 " の修養 〈その 2 〉			

# 各回の内容

	四丑としての" 芝畑 と辛丁ヴ"の枚差				
	明君としての"道理と帝王学"の修養				
	~ 経世済民(世を経め、民を済う)の本質を学ぶ ~				
笠 1 同	1.道理(理非) 2.帝王学 (1)明君とは				
第1回	` '				
	(2)明君と暗君の違い				
	(3)明君の条件(明君像) (4)治国亚モエーなど				
	(4)治国平天下 など 駅 5 京はのための" 洋徳 4 労用"の修業				
	賢臣育成のための"道徳と学問"の修養				
	~ 日本人の精神基盤"道"と"教学"の根本を学ぶ ~ 1 英徳(見ま) (1) 武士の存在音差				
	1.道徳(是非) (1)武士の存在意義 (2)武士道の精神				
第2回	(2)氏工造の精神 2.学問(知行合一編) (1)山田方谷				
	2. 子向(畑17日 禰)(1)山山77日 (2)陽明学と朱子学				
	3.学問(賢臣育成編) (1)武士の幼少期教育				
	(2)幕末の志士の教育				
	(3)次世代層の育成方法				
	正道商いの根本 " 商人道 " の修養 〈その 1 〉				
	~ 徳川三大改革を乗り越えた商人の"生き様"を学ぶ~				
	1.参考にすべき商人と家訓・商訓				
	(1)商人の歴史と近代的商人				
第3回	(2)日本的経営の原点(現代的商人)				
	2.商人道の本質を学ぶ <本質(基)編>				
	(1)社会(世の中)の道理を知るべし				
	(2)商人の本分(理)を守るべし				
	正道商いの根本"商人道"の修養 < その2>				
	~日本的経営の原点たる"商人道"の本質を学ぶ ~				
	1.商人道の本質を学ぶ <本質(基)の準ずる編>				
	(1)正道商いをせよ				
	(2)本業に徹せよ				
第4回	(3)従業員を大切にせよ				
<b>第</b> 4凹	(4)始末と算用に知恵を絞れ				
	(5)子孫よ、先祖の忠告(家訓)を守れ				
	(6)分家、別家の義を遂行せよ				
	2.今後の具現化				
	(1)社是と社訓				
	(2)人物育成の制度と仕組み				

## 享保の改革期以降の商人による商家の家訓集

家 訓 名	商人名	制作年	概   要	
白木屋享保定法	大村彦太郎勝全 < 4代>	1723 年	職業モラルが中心。	
町人考見録	三井高房 < 3代>	1728 年	番頭の助力を受けて作成した教訓書。	
住友総手代勤方心得	住友友俊 (住友友昌<5 代>弟)	1750 年	オール住友の「中堅職員服務規律」。	
伊藤呉服店家訓録	伊藤屋次郎左衛門 < 11代 >	1768年	奉公人のあり方を定めた家訓。	
若狭屋掟書	若狭屋太郎兵衛 <初代>	1773 年	事実上の創業者。	
山中家慎	山中屋兵右衛門 <二世>	1802 年	家人と店員に訓戒した家訓。	
水口屋店方掟書	小川家	1810年	店員の「執務規程」の色彩。	
絵具屋手代昼夜心得事	柴田家	1828 年	中堅従業員の「服務規則」	
岡谷家家訓	岡谷総助 < 8代>	1836年	儒教的な五倫五常の観念が多い家訓。	
伊藤家家憲	伊藤長次郎 <二世>	江戸後期	儒仏の倫理を主にした家憲。	
諸戸清六遺書	諸戸清六 < 2代>	明治時代	家憲を制定すべく、全国富豪を歴訪。	

## 享保の改革期以降による商訓集

商訓名	著 者	制作年	概   要
町人袋	西川如見	1719年	商人の本分を初めて具体的に説いた名著。
叫人表	四川如兒		商人の必読書として幕末まで版を重ねて読まれた。
家内用心集	とみやしょうげつ 頓宮 咲月	1730 年	人それぞれの"分"に安んじ、他を羨むことなく最善を尽くす。
- 水内市心来	関呂 吠 月	1730 +	家持用心の事 / 商人用心の事 / 家内制詞 15 ヶ条
あきんどすぎわいかがみ 商人生業盤	岩垣光定	1757年	商売の秘訣を具体的に説いている。
冏人生業 蟲 	石坦儿足		中身の濃さは、商いの古典では群を抜いている。
町家式目	なにわたいいん	2 1773年	商家の教訓書。
分限玉の礎	<b>况</b> 本 不 隐		主人のいしづえ / 奉公人のいしづえ
が都鄙問答	石田梅岩	不明	石門心学の根本経典。
都動問合	┃石田梅岩 ┃		士農工商、儒者・医師の道を説いている。
主従心得草	·得草		伴家の惣領と別家一統の希望に沿って書かれた書。
工化心符字		1794年	主人心得の事 / 親類互に心得の事 / 手代中の事 / 支配人の事。
けい こ だん <b>稽古談</b>	海保青陵	1813年	生活貧窮の真因を幕府(武士階層)の為政者の無知に求めている。
<b>指</b> 古談	海休育 陖	1013 4	現在の地方創生(経営コンサルタント)の先駆け。